

# 山田顕義のゆかりの地を巡る



山口市白石、県庁バイパスを県庁の手前で左に入ってください。

## 大村益次郎との出会い〜普門寺

文久3年（1863）に萩の藩庁が山口に移り、大村益次郎が藩命により江戸から帰藩しましたが、このとき益次郎は、この普門寺を宿舎としました。やがて歩兵・騎兵・砲兵など3兵学を教授したため、その当時普門寺塾とか三兵塾と呼ばれました。ここで山田顕義は益次郎から西洋式軍隊を学び、益次郎に次ぐ「用兵の天才」と呼ばれるまでになったのです。



山田顕義の山口の家は糸米にありました。すぐ向かいに高杉晋作の残された家族の家がありました。尊敬する晋作の遺族のことを思っただけで家に構えたのでしょうか。

## 顕義通り？〜奇附してできた道路があります〜



右のほころの後ろは茶臼山といい、高杉晋作の遺族が住んでいた場所です。左にそびえ立つマンションの足元に顕義の旧宅跡があります。

山田顕義の旧宅跡碑の南に、「山田顕義寄付金の碑」があります。明治初年にこの道を改修した時の寄付金が記されており、山田顕義金二十円とあります。碑は自然石で、風雪に耐えた文字は彫りが浅いので石碑が明治二十何年に彫られたかはわかりませんが、かすかに残る形跡から当時のものと思われる。



今年7月、山田顕義の妻龍子が誕生した旅館瓦屋跡に石碑が建立されました。

## 妻の実家跡〜湯田温泉の瓦屋跡

山田顕義の妻は、湯田温泉の旅館瓦屋の長女龍子です。かやぶき屋根ばかりだった幕末、当時珍しく瓦の屋根でできていたので瓦屋と名乗りました。当時の湯田温泉の中では高級旅館でした。この旅館は木戸孝允、伊藤博文をはじめ幕末の多くの有名人が宿泊しています。顕義もここに宿泊していた時に見初めたのでしょうか。どんなロマンスがあったのでしょうか。



## 野村望東尼とも親交深め…



防府市桑山にある御旗隊(みたてたい)の招魂碑

明治二十五年亡くなる直前に山田顕義は帰郷しました。このとき防府市桑山にある御旗隊(みたてたい)の桑山招魂場碑(上の写真)の文章を書きました。この桑山は思い出深いところで、慶応三年十月三日、山田顕義は野村望東尼と登り、共に戦い若くして散った志士たちの墓参りをし、望東尼は和歌を詠みました。ものみの君にささげしかねの朽ちそへちめをこぼすいし

## 菜香亭サポーターズワークショップ事業① 浴衣着せ方教室〜着くずれしないテクニック〜

7月23日(土)、講師に「山口の街を着物で歩こう会」の小川光氏を迎えて浴衣着せ方教室を開催しました。着せ方教室ということで、小中学生とお母さんのペアや自分で着付けしたいというOLさんなど、幅広い年齢層の方が来られました。浴衣が着れたら、着物の着付けの入門編はクリアだそうです。これを機会に和の伝統「きもの」が身近になればいいなと思います。



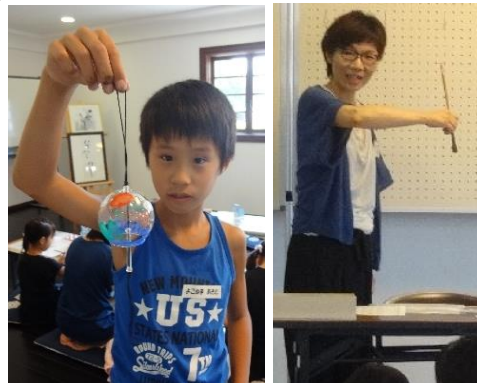
小川先生によるデモンストラーション  
かわいい！おかあさんに上手に着せてもらえたね。



みなさん、キレイに着付けできました。21人勢ぞろい。

## 菜香亭サポーターズワークショップ事業② こどものための書アート〜風鈴を作ろう〜

8月4日(木)、講師に書家で活躍中の村上真実氏を迎えて風鈴作りの教室を開催しました。最初に夏休みの課題を楷書で書いた後、風鈴の風受けの絵付けには「漢字」を古代の人のように奔放に楽しく書いてもらいました。ガラスにアクリル絵の具で絵を描くのはとても楽しいのですが、紙に描くのと様子が違うのでみんな苦勞しつつもがんばっておられました。お母さんといっしょに作られたので、夏休みの楽しい思い出になったようです。



素敵な風鈴ができたね！ 基本的な筆法を伝授…



お母さんも一生懸命…息をのんで見守る。

## まぼろしの山口時計 展示！



レトロな時計がおしゃれ。

「山口で時計！？」と、思われた方は多いと思いますが、本当に「山口時計株式会社」という、目覚まし時計を作る会社(工場)があったそうです。創業昭和24年当時は月産千個だったのが、4年後には



→工場の外観と工場内の風景

1万個を突破するほどのヒット商品を産み出したそうです。戦時中、湯田にあった飛行機部品の製造を行っていた「太刀洗航空機株式会社」の跡地に昭和24年に操業開始したもので、施設や機械設備の多くを再利用したそうです。従業員は、終戦後に外地から引き揚げてきた人たちが、近隣の主婦などで戦後の復興に一役を担っていたことがわかりました。展示中菜香亭に、当時山口時計の工場で働き夜間山口高校に通ったという男性がいらっしやいました。昔の人の勤勉さに頭が下がる思いでした。